

だいどう 内視鏡センター通信

一期一会

第⑧号

2016年5月発行

内視鏡を通じた地域の皆様との出会いを大切に

編集・発行

社会医療法人 宏潤会

理念

「皆様の信頼と満足」

それを極めることが私たちの使命です

トピックス

- 年度初頭所感
- ERCPってなあに？
- 内視鏡の進化の歴史
- 新任スタッフの紹介／学会表彰されました



スタッフの増強と検査数の増加

病院周辺の桜が咲き、2016年4月に医師2名・看護師1名の新しいスタッフが増えて、総勢医師12名・看護師11名になりました。

センター開設直後は、医師5名・看護師5名で約3,000件の検査を行っていましたが、2015年度は総検査数12,000件となりました。夜間をはじめとした緊急検査は100件以上行っており、センター始まって以来の検査件数になっています。4月からスタッフが増えたこともあり、土曜日も含め検査室は連日4室稼働しており、より多くの患者さんの検査・緊急対応ができるようになりました。開業医の先生方からの紹介は、依頼後、即日対応できるように努めています。

消化器診断はさらに高度に

また、今年度は超音波診断センターが設立され、エコー(超音波検査)のスペシャリストが協力し合い、高度な画像診断ができるよう取り組んでおります。そのため、放射線画像診断・超音波診断・内視鏡診断ともに消化器診断にさらなる医療の充実が図られ、より高度な医療を提供できるようになりました。

看護師職員も、検査に来られた患者さんに寄り添い、一人一人に合ったより良い看護が提供できるよう心がけております。

今年度も皆さんに満足していただけるよう、職員一同力を尽くしていきます。

FOCUS!
1

内視鏡検査 + レントゲン検査 = ERCP

ERCP

endoscopic retrograde cholangiopancreatography
ってなあに？



ERCPとは

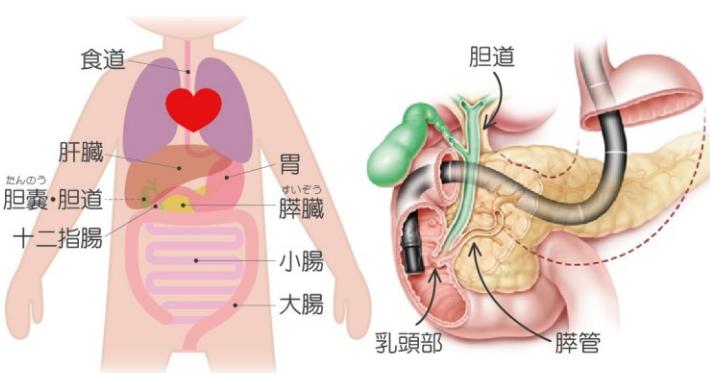
ERCP(内視鏡的逆行性胆道膵管造影)は、内視鏡を使った胆道や膵管の検査です。

カメラを口から入れて食道・胃を通して十二指腸まで進め、その先端から膵管・胆管の中にカテーテル(細い管)を挿入します。カテーテルから造影剤を入れて、膵管や胆管のレントゲン(X線)写真をとるのです。同時に膵液や胆汁を採取したり、病変部から組織や細胞を取って検査を行うこともあります。また、近年では、検査だけでなく治療目的で行うことも多くなっています。

どんな病気に対して行うか

胆道、膵臓の病気を調べる検査であるため、主に膵臓疾患や胆道疾患の検査・治療に用いられます。また、胆汁と膵液の出口である乳頭部も調べることができるため、乳頭部疾患も適応となります。

適応例：膵臓癌、膵嚢胞性疾患、慢性膵炎、
膵管癒合不全、膵胆管合流異常、胆管癌、
胆嚢癌、胆道結石症、胆管狭窄、乳頭部癌、
乳頭機能不全症、など



胆道・膵臓の位置およびERCPのイメージ図

右図の出典：American College of Gastroenterology official WEB site

検査の流れ

前日、または当日より入院していただきます。また、緊急で行う場合も数多くあります。

当日は、まず検査前にのどを麻酔薬で麻酔します。次に検査台にうつ伏せになり、静脈注射で意識をぼんやりさせます。内視鏡を口から十二指腸まで挿入し、処置を行います。30分から1時間程度で終了した後、病室に戻り、休んでもらいます。

当院の実績

ERCPは、その検査・治療の内容から、消化器における内視鏡の中では高度な技術を要するとされています。当院では年間500件以上行っています。通常の胃カメラよりも体への負担や合併症の多い検査ですが、患者さんが安心して検査を受けることができるよう、職員一同サポートします。



ERCPで得られるレントゲン写真
(胆道の造影)

執筆者

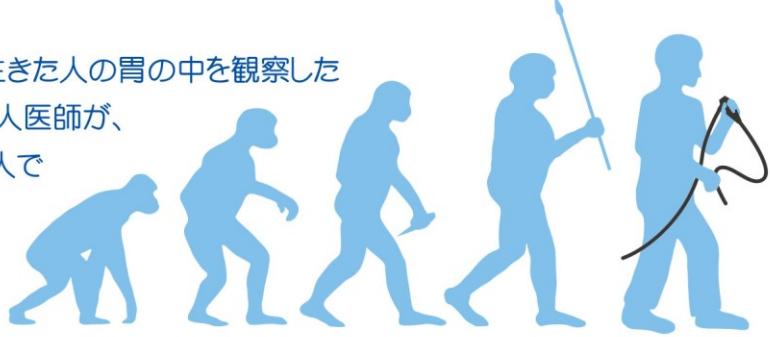


Takamitsu Kurashita

消化器内科医師

倉下 貴光

内視鏡の起源は紀元前といわれますが、初めて生きた人の胃の中を観察したのは、1868年（日本の明治元年）のこと。ドイツ人医師が、まっすぐな金属棒を使って、剣を飲みこむ大道芸人で試したそうです。今や医療の現場に欠かせない内視鏡はその後どのように進化していったか、その歴史を少しみてみましょう。



内視鏡の進化の歴史

終戦から4年後の日本で、胃カメラの本格的な開発が始まりました

1949年、医師から“胃の中を見るカメラ”的製作を依頼された光学機器メーカーが開発に着手。試行錯誤の末、長い管の先に小型カメラを取り付けた原始的な「胃カメラ」を試作しました。フィルムは白黒で、豆電球を光らせて撮影するものでした。

内視鏡の改良と多種化は、その活躍の場を飛躍的に拡大させました

やがて光を送ることのできる新素材 ガラスファイバーが導入されて「ファイバースコープ」が登場し、内視鏡は急速に普及しました。さらに改良を重ね、近年ではデジタル画像を取り扱う「電子スコープ」が登場し、画像がより鮮明になりました。機器の改良は診断精度を高め、疾患の早期発見に大きく貢献しました。

また、胃だけにとどまらず、今では、脳、消化器（食道、十二指腸、胆嚢、脾臓、小腸、大腸等）、気管支や泌尿器などでも使われます。臓器や使用目的に応じて作られ、非常に多くの種類があり、患者さんに合わせて医師や看護師が選択しています。

内視鏡は高機能化し、身体の奥で医師の目となり手となっています

内視鏡の基本機能は“診る”機能。拡大内視鏡を使えば、顕微鏡のように画像を拡大して確認できる最先端のものもあります。ハイビジョンカメラを使った内視鏡は、画像が非常に鮮明に写ります。“撮る”機能も重要で、今では動画の保存もできます。また、超音波内視鏡には“超音波を発して検査する”機能があります。他にも、“洗う” “空気を送る” 機能があり、臓器の中の汚れや血液を水で洗い流したり、全体がよく見えるように臓器に空気を送り込んで膨らましたりできます。

さらに、管の中には「鉗子チャンネル」という、管内を根元から先端まで貫通した細いトンネルがあり、ここに器具を通して多様な処置ができるようになりました。今では検査だけでなく、治療の道具としても幅広く活用されています。



臓器や使用目的に応じて太さや先端の形状が異なります



当センターは49本の内視鏡を管理しています



当センターの内視鏡システム

NEW FACE 新任スタッフの紹介

2015年4月、消化器内科に新たに2名着任しました。

- ①患者さんと接する時に気をつけています
- ②興味のある分野、得意な手技
- ③座右の銘、モットー
- ④趣味、休日の過ごし方
- ⑤「一期一会」を手に取られた方へのメッセージ

Sota Mizuno

水野 創太

- ①一番不安に思っていることを聞くようにしています。
- ②カメラが得意と言えるように日々頑張っています。
- ③小さな事からコツコツと
- ④最近始めたゴルフと登山。色々なところにご飯を食べにも行きます。
- ⑤いつでも気軽に話しかけてください。宜しくお願ひします！！



Tetsuhiro Kanazawa

金沢 哲広

- ①病気の辛い体や気持ちに寄り添い、それぞれの希望に沿った医療を提供できるように心がけています。
- ②内視鏡を用いた手技検査一般
- ③人間万事塞翁が馬
- ④ドライブ、料理、映画鑑賞、ゴルフ（予定）
- ⑤心配なこと、疑問に思ったことなど何かあればお気軽におしゃってください！！

GOOD NEWS 学会表彰されました

当センターの大北宗由医師が、第123回日本消化器病学会東海支部例会での研究発表に対して、日本消化器病学会専修医奨励賞を授与されました。2015年度大北医師の受賞はなんと2つ目です！

なお、発表テーマは「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の合併が示唆されるIgG4関連疾患の一例」でした。



受診のご案内

● 消化器内科医師予定表 (2016年4月時点)

	月	火	水	木	金	土
外 来	榎原	野々垣	印牧	野々垣	下郷	交代制
	大北	西川	榎原	下郷	宜保	
	柳瀬	水野	宜保	西川	南	
		南(1,3,5週) 大北(2,4週)	金沢			
内 視 鏡	印牧	榎原	野々垣/水野	榎原/水野	野々垣/金沢	交代制
	下郷	宜保	下郷/倉下	宜保/金沢	西川	
	西川/南	倉下	西川/柳瀬 (隔週)	大北	大北/榎原 (午後)	
	宜保/水野	大北又は南	大北又は南	南/倉下	倉下	

● 予約方法

外来は完全予約制となっております。
お電話でご予約の上、お越し下さい。
※出張などで予定していた医師が不在の場合があります。

 だいどうクリニック予約センター

TEL 052-611-6265

当日受診の予約受付 8:30 ~ 11:30
当日以降受診の予約受付 & 変更 11:30 ~ 17:00
(土曜は~14:00)

だいどう内視鏡センター通信「一期一会」（2016年5月発行、第8号）

編集・発行：社会医療法人 宏潤会 [大同病院、だいどうクリニック、中央クリニック、大同老人保健施設]
愛知県名古屋市南区白水町9番地 TEL 052-611-6261(代表) FAX 052-614-1036